

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2022年12月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2022年12月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:283、回収数:115、回収率:40.6%、回収期間:2022年12月20日~2023年1月6日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

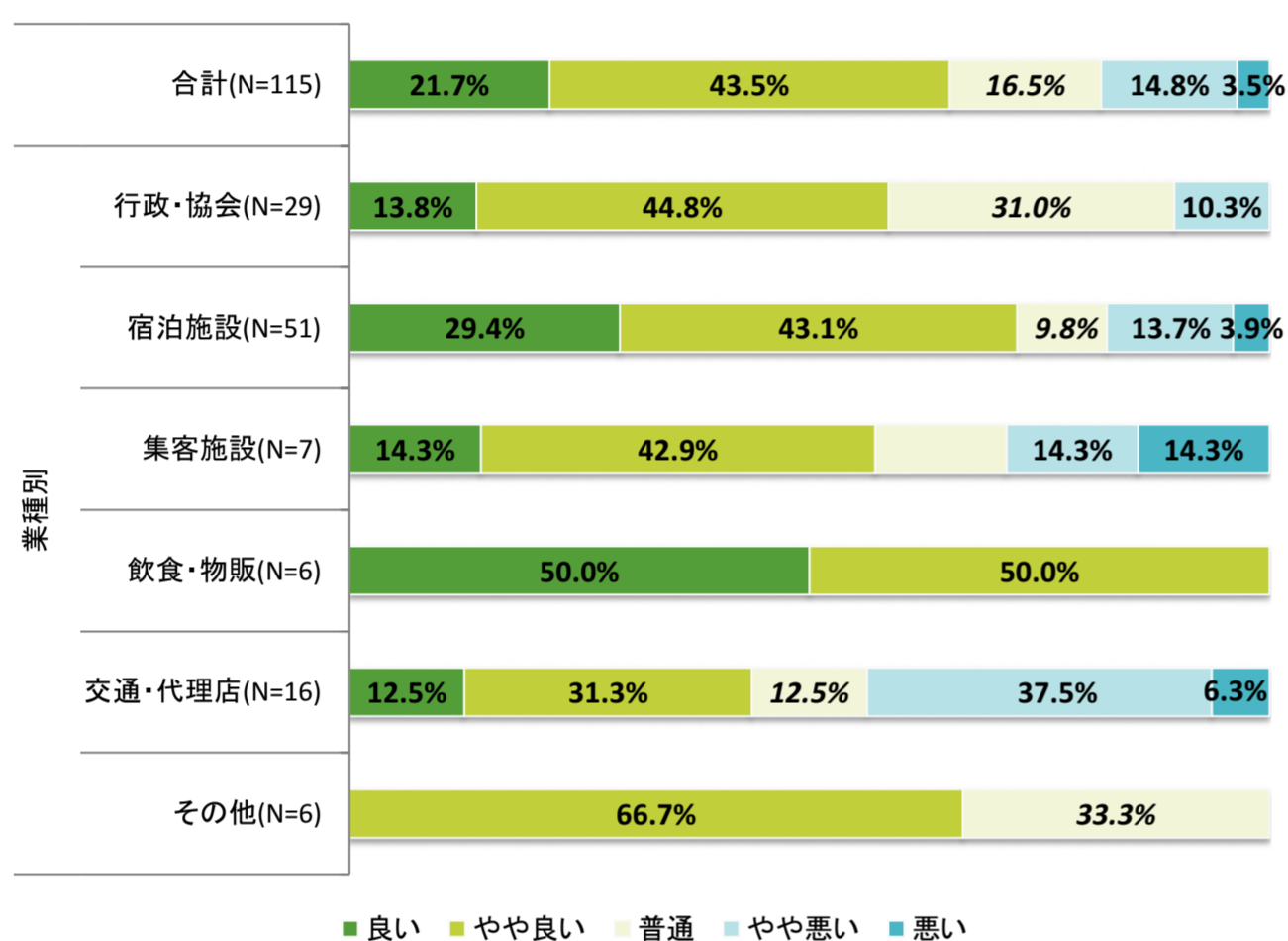
1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (10月~12月)	見通しDI (1月~3月)
合計(N=115)	66.3	52.2
行政・協会(N=29)	65.5	54.3
宿泊施設(N=51)	70.1	46.6
集客施設(N=7)	57.1	53.6
飲食・物販(N=6)	87.5	54.2
交通・代理店(N=16)	51.6	60.9
その他(N=6)	66.7	62.5

10~12月の熊本県の現状判断DIは66.3となった。合計のDIは前期(50.2)から更に上昇し、今期はすべての業種でDIが50を上回る結果となった。10月11日に開始された全国旅行支援によって全国で観光の機運が高まり、観光客の目的地にもなる宿泊施設や、飲食・物販で前期比20pt以上の大きな上げ幅を記録している。

また、見通しDIは52.2となった。前回(68.1)を大きく下回っているものの、大半の業種で50を上回っており、全体的に安定化の傾向にあることが窺える。今期は「良くなる」「やや良くなる」理由として、全国旅行支援が延長されることへの期待が多数を占めた。一方で「悪くなる」「やや悪くなる」と回答した理由には、1月以降全国旅行支援の割引率が引き下げられることや、新型コロナウイルスの感染者数が再び増えていることが挙げられた。

2. 10~12月期の動向、景況感

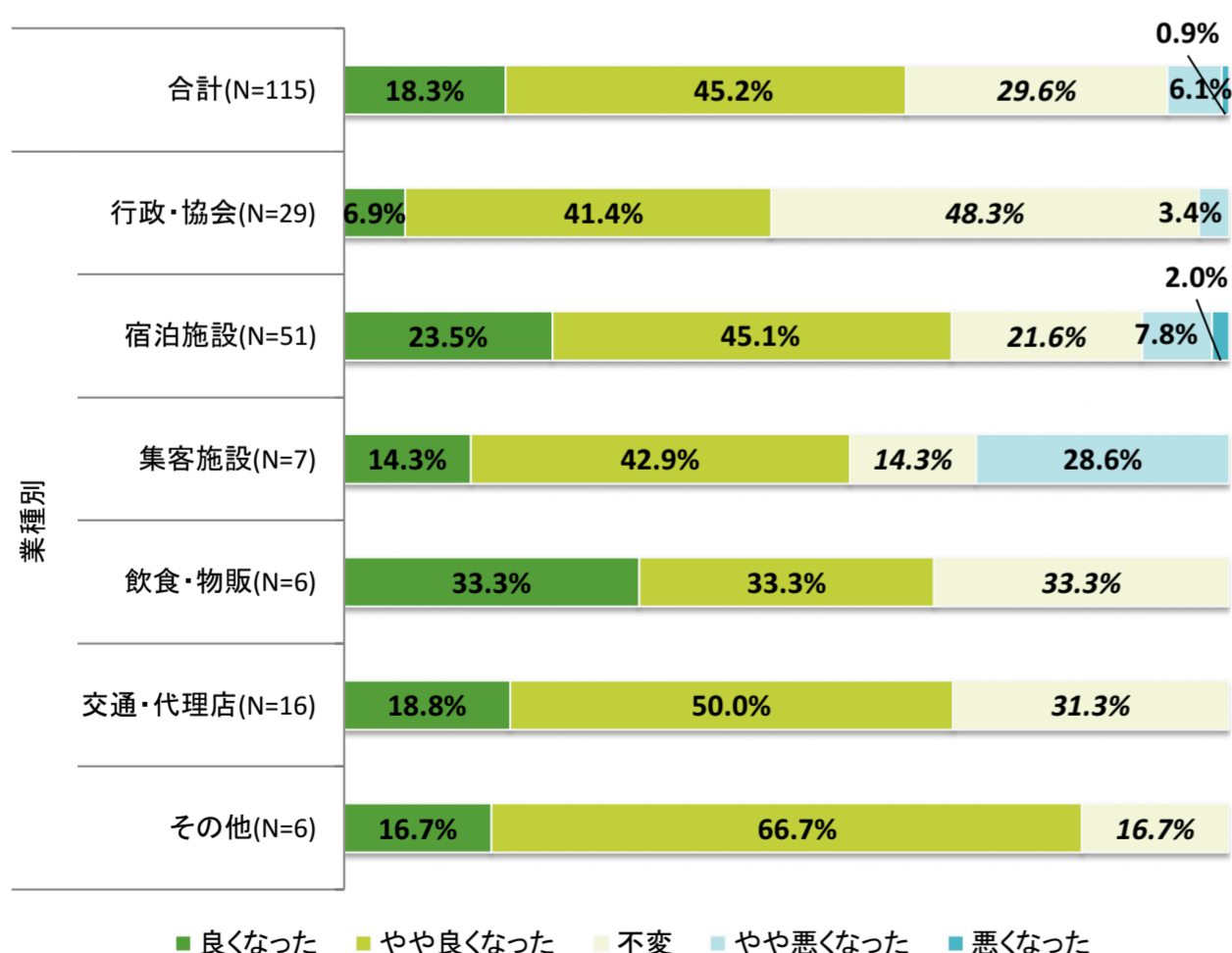


10~12月の景況感は、全体では「良い」「やや良い」の合計が65.2%、「悪い」「やや悪い」は18.3%となった。

【コメントの抜粋】

- 良い
全国旅行支援、他施設の閉鎖(宿泊施設)
県外からのお客様が増え、今年は早い時期より忘年会が入ったため(飲食・物販)
- やや良い
TSMC工事関係者の長期滞在(宿泊施設)
行動制限緩和及び全国旅行支援の開始により、修学旅行や一般団体の観光客が目立ってきたと感じるため。(行政・協会)
昨年に比べコロナ感染者増でもキャンセルされる方が減っている。(交通・代理店)
- 普通
昨年は上回っているが、全国旅行支援の恩恵が想定より小さいため(その他業種)
- やや悪い
観光客自体が回復しきれていませんが中でも個人旅行と比較し、団体旅行が回復していない。(集客施設)
- 悪い
コロナの流行、令和2年7月豪雨災害の影響で完全な復旧をしていないため(交通・代理店)

3. 7~9月期に比べた10~12月の動向、景況感

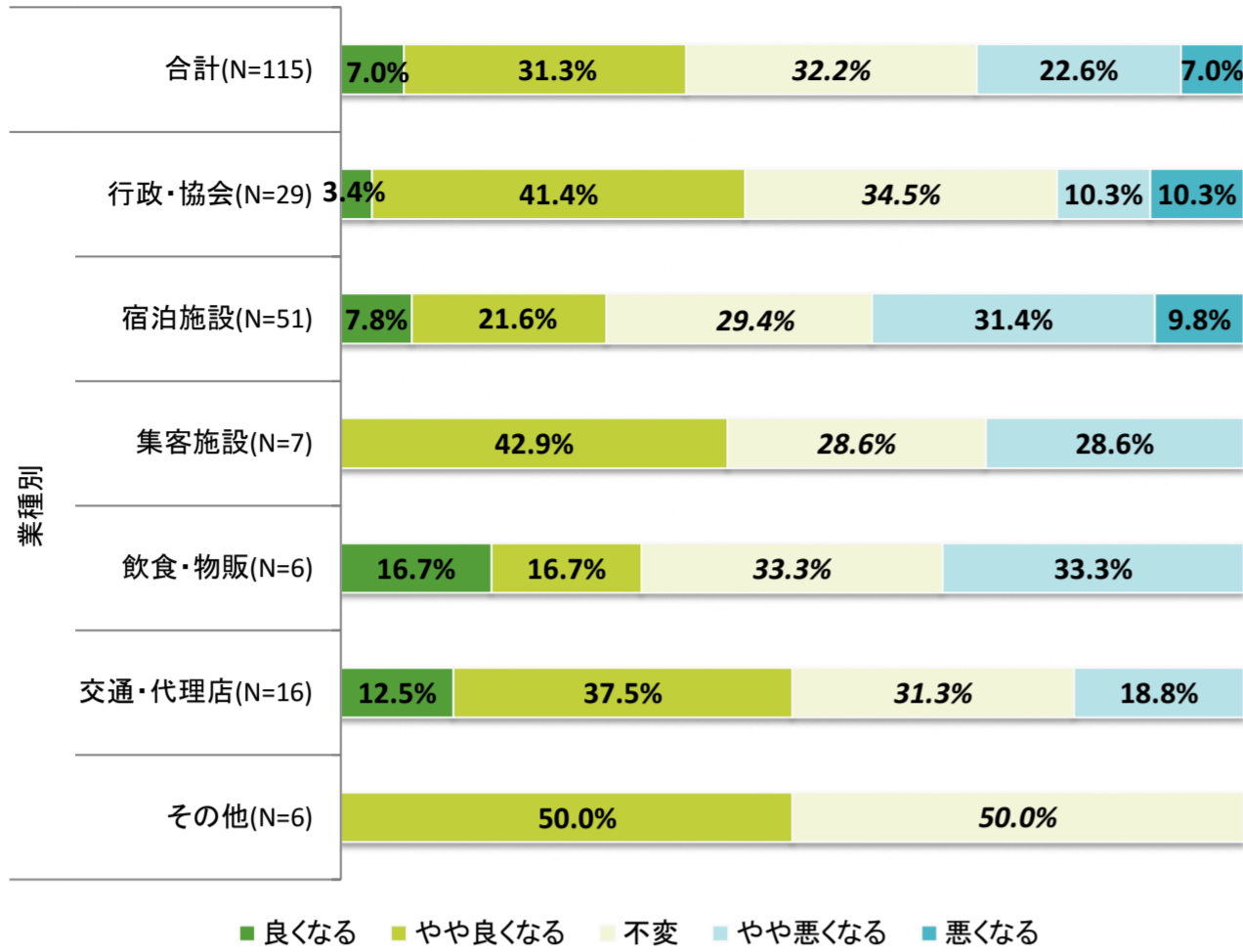


7~9月期に比べた10~12月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が63.5%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体で7.0%となった。このうち飲食・物販、交通・代理店、その他業種では「やや悪くなった」「悪くなった」との回答が無かった。

【コメントの抜粋】

- 良くなった
宿泊支援の対象が全国に拡大された為(宿泊施設)
シーズンに入り、併せて全国割の影響による(行政・協会)
- やや良くなった
県外からのお客様の来店と、地元のお客様も増えたため(飲食・物販)
日帰り客、宿泊客、インバウンド訪日客が増えてきているため。(行政・協会)
- 不変
10、11月は行楽シーズン及び、修学旅行、見学旅行が多く訪問していただいた(集客施設)
- やや悪くなった
10月から全国旅行支援が開始されたものの、まだ近場の旅行がかなりのウエイトを占めていることと、12月に入りコロナ感染者数が増加していることがブレーキとなっているため(交通・代理店)
- 悪くなった
繁忙期にはかなわない。12月は少しお客様が減ります。(宿泊施設)

4. 今後、2023年3月までの業況の見通し



今後3月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は38.3%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は29.6%となっている。

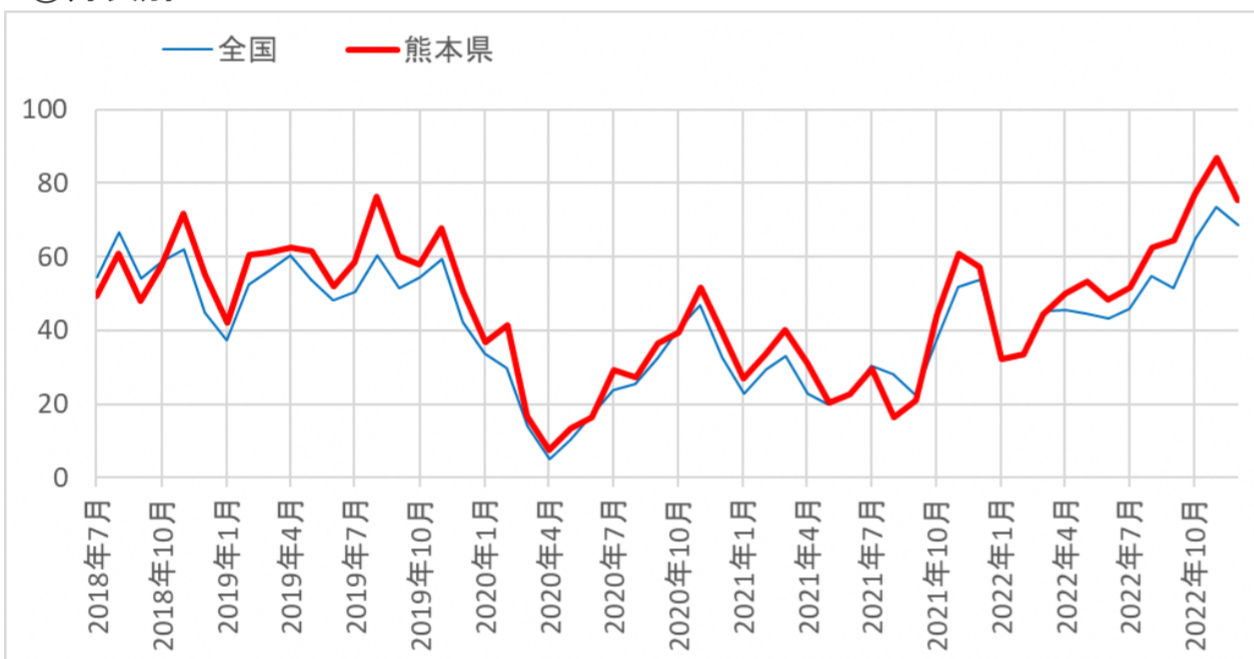
主な「良くなる」「やや良くなる」理由として、全国旅行支援の延長やTSMC関係者の滞在による効果、また「悪くなる」「やや悪くなる」理由として新型コロナウイルスの感染状況や、1～3月が例年観光客の多いシーズンでないことが挙げられた。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
大型イベントがコロナ禍前の規模で開催されるため。全国旅行支援が3月末まで実施されるため。台湾・韓国のチャーター便の運航が再開されるため。(交通・代理店)
- やや良くなる
閑散期とはなるが、通常イベント開催、宿泊キャンペーンなどによる観光客の増加が若干みこめる(その他業種)
- 不変
全国旅行支援が1月から再開されるものの、割引額の減少、また、修学旅行シーズンが終わるため、客数が落ち着いてくる見込(飲食・物販)
- やや悪くなる
新型コロナウイルスの感染拡大が予想されているため。(行政・協会)
例年のデータにより、1月～3月は集客減少傾向にある為。(集客施設)
- 悪くなる
冬休み以降の予約の動きが鈍い為(宿泊施設)

5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別

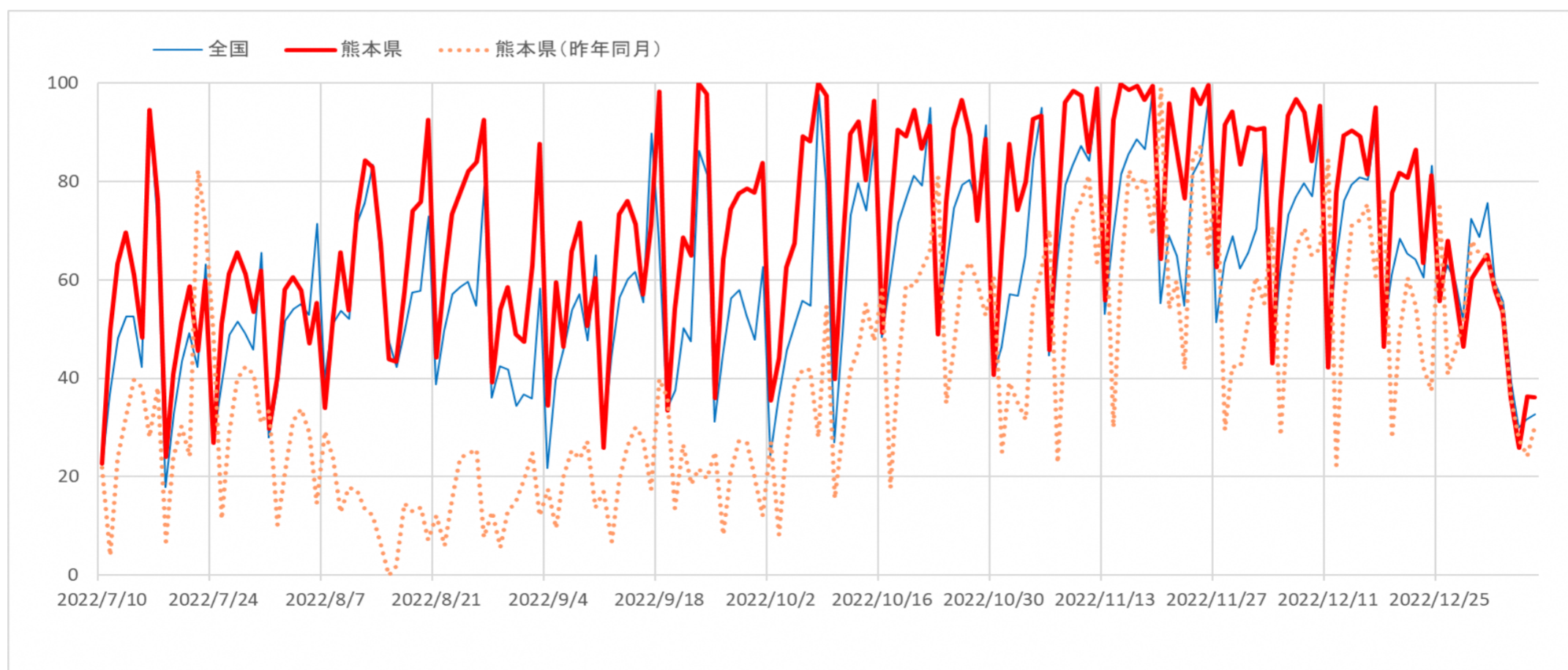


2022年10月における熊本県の宿泊稼働指数は77.1(前年差+32.9pt)、11月は86.8(同+25.8pt)、12月は75.4(同+18.1pt)となった。同期(10～12月)としては、全国旅行支援が実施された影響により、コロナ前の水準を上回る結果となった。

感染状況の落ち着きや行楽シーズンの到来により11月にピークを迎えたが、12月は第8波の到来により、旅行を自粛する動きも見られる。しかし、全国旅行支援の効果は大きく、直近3か月の稼働状況は2019年の観光シーズンに劣らない結果となっている。

エリア別では、おおむね全てのエリアで高い水準となっており、コロナ禍で長い間指数が低かった熊本市も、大きく上昇している。

②日次別



熊本県の宿泊稼働指数を日次別(原数値)で見ると、10/8(土)に指数100(過去2年間で最も空室数が少ない)を記録したほか、11月も土曜日を中心に90を超える日が見られる。また、10月11日の全国旅行支援の開始以降は、平日の指数も70～90程度まで上昇している。新型コロナの感染状況が落ち着いていたこともあり、多くの世代で旅行の機運が高まったことが要因と考えられる。

また、全国と比較すると、全体的に熊本県が全国を上回る日が多いが、前期に引き続き、特に平日でその傾向が顕著に表れている。

用語解説

※DI(ディフュージョン・インデックス)

同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。

具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\left(\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) / \left(\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) * 100 \right)$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。